神戸新聞 2017年02月21日 火曜日 面名 ＳＢ １３ 22ページ

四大陸フィギュア観戦記

韓国・江陵（カンヌン）で19日まで開かれたフィギュアスケートの四大陸選手権。女子の三原舞依（神戸ポートアイランドクラブ）が、日本女子4人目となる200点突破の快挙とともに、初出場優勝に輝いた。1年後に平昌（ピョンチャン）冬季五輪を控えた会場で、新たなシンデレラストーリーを見た。（29面参照）

金メダルを手に笑顔を見せる三原舞依（中央）＝撮影・山本哲志

平昌 躍り出たシンデレラ

三原V、兵庫で鍛えた強い心

18日夜、韓国北東部の港町・江陵。昨年12月に完成した「江陵アイスアリーナ」は、紫やピンクの光に照らされ、幻想的に浮かび上がっていた。

大会前から、羽生結弦（ANA）ら充実の布陣で臨む男子に比べ、エース宮原知子（関大）をけがで欠く女子は不安視されていた。16日のショートプログラム（SP）では三原の4位が最高。この日のフリーも樋口新葉（東京・日本橋女学館高）、本郷理華（邦和スポーツランド）が相次ぎ転倒し、樋口はリンク上で泣き崩れた。

そんな中でも、三原の強靱（きょうじん）な精神力は揺るがなかった。フリー曲「シンデレラ」に合わせ、計七つのジャンプ要素を全く軸をぶれさせずノーミスで乗り切った。演技を終えると、3位に入った昨年12月の全日本選手権と同じように顔の近くで両手を握る。その瞬間、スタンドには日の丸があふれ、記者の近くにいた韓国人の親子も拍手を送っていた。三原は「とても温かい雰囲気でした」と感謝した。

約4千人が訪れたという日本のファンも大喜びだった。表彰式では「舞依ちゃん、おめでとう」とあちこちから声が掛かる。東京都墨田区の団体職員、田島さか恵さん（38）は「試合前からすごく落ち着いて見えた。謙虚だけど、心がとても強い子だと思う。韓国で日本人の優勝が見られたのはとてもうれしい」と興奮冷めやらぬ表情だった。

初出場優勝は2008年の浅田真央（中京大）以来。中野園子コーチも認める勝負強さは日々の練習のたまものだ。「SPもフリーも、自分のできるものしかやっていない」と三原。全身の関節が痛む病を乗り越え、阪神間のリンクなどで徹底した反復練習を行い安定感を培ってきた。

「世界の舞台に『三原舞依はこんな選手だよ』って表現したい」と語っていた17歳。試合は韓国のテレビでも放映され、「マイ・ミハラ」の名はしっかりと刻まれた。1年後、同じリンクで脚光を浴びるシンデレラの姿も、決して夢物語ではない。（山本哲志）

女子フリー　華麗なスピンを披露する三原舞依（共同）

(C)神戸新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。

名　前【　　】

① この記事の主な見出しを一つ書きましょう。

〔　　〕

② シンデレラとは誰のことですか？

〔　　〕

③ 初出場優勝は、何年の誰以来の快挙ですか？

〔　　〕

④ 記事を読んでどう思いましたか。感想を書きましょう。

NIEワークシート／小学高学年～中学生／国語、総合、道徳、朝NIE